

平成 13 年度 灘のけんか祭り

松原八幡神社秋季例大祭



~ 宇佐崎 ~

14日 - 宮入

・八家屋台が楼門に入った時

皆さん、こんにちは、私は灘中学校の「」です。ただいまから、「宇佐崎」の紹介をします。

長い歴史と伝統に支えられた「灘まつり」21世紀最初の練り番は「宇佐崎」です。21世紀の最初の日であります今年の正月に、宇佐崎の祭典関係者一同は、練り番にふさわしい祭りを成功させるため、松原八幡神社に町民らとともに大きな提灯を練り出しながら、参拝しました。

今日の日を迎えるにあたって、宇佐崎の氏子らは、元気一杯に盛り上がってきました。

今しばらくしますと、本年、新調された「旧宇佐崎村」の大幟を先頭に、一の丸、二の丸、三の丸の神輿幟と宇佐崎のシンボルカラーの黄色の紙手に囲まれた「宇佐崎屋台」が威勢よく宮入りしてきます。

今年の宵宮、宇佐崎の練り子は裸で屋台を担ぎます。練り番の自覚と宇佐崎の心意気を示しています。

明日の本宮では、早朝より白浜海岸で潮かきを行った後、宇佐崎だけにしか着用できない「かに入り」の神輿ハッピーを着て、宮入をします。宇佐崎が7年振りに神輿合わせを行います。どうかご期待ください。皆さん宇佐崎屋台が見えたら大きな声援をお願いします。

・宇佐崎屋台が練り上がり日参に近づいた時

それでは、「旧宇佐崎村」について紹介します。「宇佐崎」の地では、昔、松原八幡宮の神事として歩射が行われたことや姫路城主赤松貞範が武者の的を立てたことから、古くは「歩射崎」「武者崎」と称されていましたが、その後、松原八幡神社の勧請元の宇佐八幡宮の名にちなみ、「宇佐崎」と改めたといわれており、古くから松原八幡神社とは縁の深い村です。

また、江戸時代には近郷の15の村を管轄する大庄屋役所の「宇佐崎組」が置かれ、宇佐崎の庄屋が代々この職をつとめました。そういったことからか、灘のけんかまつりの神輿は、宇佐崎の練り番のときに新調されるようになったといわれています。

また、近年「宇佐崎」は、塩田を中心に発達し栄えた村でしたが、最近塩田跡が開発されて、住宅は、1800軒を超え、また、工業跡地には多数の企業が進出し、大きな町に発展しました。

屋台は、この大きく発展した「宇佐崎」にふさわしいよう平成5年に新調したもので力強く豪華絢爛なものです。

・宇佐崎屋台が日参をくぐった時

まもなく、宇佐崎の宮入です。宇佐崎屋台の特長を説明します。

宇佐崎のシンボルは、龍の紋です。立体的な感覚を取り入れ、天に駆け上がろうとする「昇り龍」です。

屋根の上にある露盤は、越中井波の南部氏の作で正面となる南に朱雀，東に青龍，西に白虎，北に玄武を配した「四神」と呼ばれるもので、宇佐崎の地及び人々に降りかかる多くの災厄を排除すると同時に、宇佐崎の繁栄・平和・招福及び長寿をもたらすよう願いを込め平成 5 年に製作され、新しい宇佐崎のシンボルとなっています。

また、狭間は、露盤とともに新調されたもので、昭和 8 年に屋台が作られたときの路盤の名場面「楠公父子別れの場」などが復元されたものです。

高覧掛けの武者ぶとんは、平成 11 年に新調したもので、「義経八艘飛び」などの源氏絵巻が絢爛豪華に描かれています。

皆さん、聞いてください。この太鼓の響きを・・・太鼓打ちは、ブイを肩の上で回転させながらきめる「まわしブイ」と呼ばれる方法で、拝殿前では 3 回の「デン・ヨッソエ」を元気・潑刺に打ちます。

中学生紙手の「若中」を先頭に「本幟」「神輿幟」「紙手」「棒端」「練り子」「太鼓」など、宇佐崎村が一体となった宇佐崎屋台の「宮入」です。

この迫力、この気迫、荒っぽさが神髓の宇佐崎屋台、老若男女の人の渦、町全体が 1 年の計をこのまつりに集中すること、これが「宇佐崎のまつり」です。

皆さん、「宇佐崎のまつり」の醍醐味を最後まで、思う存分味わってください。以上で宇佐崎の説明を終わります。

15日 - 宮入

・中村屋台が楼門に入った時

皆さん、こんにちは、私は灘中学校の「」です。今年の練り番「宇佐崎」を担当しています。よろしくお願いいたします。宇佐崎の宮入までの時間をかりまして、まず「灘祭り」について紹介します。

「灘まつり」とは、姫路市白浜町の松原八幡神社の秋季例大祭の俗称で、毎年10月14日・15日に執り行われます。

「灘祭り」は「灘のけんかまつり」とも呼ばれ、一の丸、二の丸、三の丸の3台の神輿を荒々しくぶつけ合う特異な神事によって、天下の奇祭だとか、全国の数ある「けんか祭り」の中でも最大規模の祭りであると言われ、すでに明治時代以降から播磨を代表する祭りとして知られてきました。昭和時代になり、この神輿行事のほか、絢爛豪華な屋台を盛大に練り競う勇壮豪華な行事が人気を呼び、兵庫県の代表的な祭りとして海外にまで、その名が知られるようになりました。

次に、宇佐崎の練り番と神輿行事について説明します。旧7カ村が7年に一度神輿行事を担当することが練り番です。昔から、練り番の順番は宇佐崎が始めとされています。また、神輿を新調するのは宇佐崎の練り番の時とされ、宇佐崎の練り子は、新調した神輿の漆にまけないよう、「かに入りハッピー」を着用します。このかに入りハッピーを着ることができるのは7年に一度、宇佐崎の練り番だけとされています。

それでは、「旧宇佐崎村」について紹介します。「宇佐崎」の地では、昔、松原八幡宮の神事として歩射が行われたことや姫路城主赤松貞範が武者の的を立てたことから、古くは「歩射崎」「武者崎」と称されていましたが、その後、松原八幡神社の勧請元の宇佐八幡宮の名にちなみ、「宇佐崎」と改めたといわれており、古くから松原八幡神社とは縁の深い村です。

また、江戸時代には近郷の15の村を管轄する大庄屋役所の「宇佐崎組」が置かれ、宇佐崎の庄屋が代々この職をつとめました。そういったことからか、灘のけんかまつりの神輿は、宇佐崎の練り番のときに新調されるようになったといわれています。なお、今年は、14年振りに神輿の屋根が新調され、黒い漆が塗られていますのでご覧ください。

このように古くからの伝統を守りながら、近年、「宇佐崎」は、塩田を中心に発展してきた村でした。昭和50年代頃から、広大な塩田跡は区画整理によって、住宅地や工場地に生まれ変わり、現在では住宅が、約1800軒を超え、多くの企業が進出する大きな町に発展しました。

長い歴史と伝統に支えられた「灘まつり」・・・21世紀最初の練り番は「宇佐崎」です。いよいよ、21世紀の幕開けの「神輿合わせ」の始まりです。

21世紀の最初の日であります、今年の元日、宇佐崎の祭典関係者一同は、練り番にふさわしい祭りを成功させるため、松原八幡神社に大きな提灯を練りながら、参拝しました。今日の日を迎えるにあたって、宇佐崎の氏子らは、元気一杯に盛り上がっています。皆さま

んのご声援とご協力をお願いします。

次に神輿行事について説明します。神輿行事に関する人々は、まず、自分の体を清める禊の行事から始めます。これを「潮かきの儀」とよび、神輿行事に参加する宇佐崎の関係者は、今朝の午前 5 時過ぎに屋台倉に勢揃いし、宇佐崎の本幟を先頭に一の丸、二の丸、三の丸の神輿幟と屋台をもって、白浜海岸で神事を行った後、練り子全員が、潮かき用のために特注したまわしをしめ、夜明けの冷たい海水に勢い良く入り、元気一杯の潮かきを行い、身も心も清め、神輿行事の安全と成功を祈ってきました。

次に、神輿について説明します。神輿は 3 基あり、松原八幡神社におまつりされている神様が、15 日の早朝に亀山宮司さんによって「御霊写しの儀」が行われ、それぞれの神輿にまつられています。一の丸は「応神天皇」二の丸は「神功皇后」三の丸は「ひめ大神」(天照大神の子で子孫繁栄の神様)です。灘のけんかまつりの神輿は、なぜ、激しくぶつけ合うのかというと、昔、神功皇后が外国と戦って、帰ってくる途中、松原八幡神社の先にある白浜の沖で軍船についたゴイナ(カキ)を落とすために、船をぶつけ合った故事にちなむと言い伝えられており、神輿合わせを激しくぶつけあうほど、神意に叶うとされています。なお、3 基の神輿合わせを行う宇佐崎の練り子は、年齢別に分けられており、一の丸は、黄色で 26 才から 35 才、二の丸は白で 36 才以上、三の丸は赤で 16 才から 25 才となっています。

・宇佐崎が日参付近に見えて、宮入をする

まもなくしますと、宇佐崎の宮入が始まります。楼門前の人、拝殿前の人は大変危険ですので、今すぐ通路をあけて下さい。

今年、新調された「旧宇佐崎村」の大幟を先頭に、一の丸、二の丸、三の丸の神輿幟やたくさんの「警固(ケンゴウ)」に囲まれて、河野総代を騎馬にして「宇佐崎氏子」が威勢良く宮入してきました。いよいよ灘のけんかまつりのハイライトシーンです。皆さん、宇佐崎の練り子達が見えたら大きな声援をお願いします。

・宮入後、拝殿前から、鳥居に向かって走る時

宮入に続いて、練り子たちは、拝殿と赤い鳥居の間を 3 回往復して走ります。これを「潮かき」と呼び、神輿を出すまでの禊の行事とされています。この勢いでいよいよ神輿が拝殿から出されます。

・拝殿から、神輿を出す時

神輿が練り上げられました。境内におられる見物の皆さん、神輿合わせは非常に危険ですので、拝殿前を広くあけて、後ろに下がってください。最初に一の丸がでてきました。黄色のはちまきです。続いて二の丸が出てきました。白色のはちまきです。最後に三の丸が出てきました。赤色のはちまきです。

- ・神輿が拝殿から出て、練り合わせが始まった時

一の丸の屋根にある鳳凰は、拝殿内で、はずされています。ここで、神官一行が御旅山に向けて渡行に出発します。拝殿前から楼門までの通路を広くあけて下さい。(この時期は当日の神輿合わせの状況により変更となります。)いよいよ神輿合わせが始まります。観客の皆さん、非常に危険ですので後ろに下がって下さい。ご注意をお願いします。

- ・神輿が楼門から、出る時

神輿が宮の外に出ます。楼門付近の方は十分に注意して下さい。

- ・神輿が楼門から出てきた時

いまから、棧敷前広場で、神輿合わせが行われます。観客の皆さんは非常に危険ですので神輿には絶対に近寄らないで下さい。

- ・神輿が山に向かう時

神輿が御旅山に向かいました。宇佐崎の皆さん、御旅山の練場でも頑張ってください。ご声援ありがとうございました。

15日 - 広畠

・松原八幡神社の獅子屋台が山上がりをした時

皆さん、こんにちは、私は灘中学校の「」です。今年の練り番「宇佐崎」を担当しています。よろしくお願いします。

宇佐崎の神輿が広畠に入りますまでの時間をかりまして、「灘まつり」について紹介します。

「灘まつり」とは、姫路市白浜町の松原八幡神社の秋季例大祭の俗称で、毎年10月14日・15日に執り行われます。

「灘祭り」は「灘のけんかまつり」とも呼ばれ、一の丸、二の丸、三の丸の3台の神輿を荒々しくぶつけ合う特異な神事によって、天下の奇祭だとか、全国の数ある「けんか祭り」の中でも最大規模の祭りであると言われ、すでに明治時代以降から播磨を代表する祭りとして知られてきました。昭和時代になり、この神輿行事のほか、絢爛豪華な屋台を盛大に練り競う勇壮豪華な行事が人気を呼び、兵庫県の代表的な祭りとして海外にまで、その名が知られるようになりました。

次に、宇佐崎の練り番と神輿行事について説明します。旧7カ村が7年に一度神輿行事を担当することが練り番です。昔から、練り番の順番は宇佐崎が始めとされています。また、神輿を新調するのは宇佐崎の練り番の時とされ、宇佐崎の練り子は、新調した神輿の漆にまけないよう、「かに入りハッピ」を着用します。このかに入りハッピを着ることができるのは7年に一度、宇佐崎の練り番だけとされています。なお、今年の神輿は14年振りに屋根が新調され漆が塗られています。

それでは、「旧宇佐崎村」について紹介します。「宇佐崎」の地では、昔、松原八幡宮の神事として歩射が行われたことや姫路城主赤松貞範が武者の的を立てたことから、古くは「歩射崎」「武者崎」と称されていましたが、その後、松原八幡神社の勧請元の宇佐八幡宮の名にちなみ、「宇佐崎」と改めたといわれており、古くから松原八幡神社とは縁の深い村です。

また、江戸時代には近郷の15の村を管轄する大庄屋役所の「宇佐崎組」が置かれ、宇佐崎の庄屋が代々この職をつとめました。そういったことからか、灘のけんかまつりの神輿は、宇佐崎の練り番のときに新調されるようになったといわれています。

このように古くからの伝統を守りながら、近年、「宇佐崎」は、塩田を中心に発展してきた村でした。昭和50年代頃から、広大な塩田跡は区画整理によって、住宅地や工場地に生まれ変わり、現在では住宅が、約1800軒を超え、多くの企業が進出する大きな町に発展しました。

長い歴史と伝統に支えられた「灘まつり」・・・21世紀最初の練り番は「宇佐崎」です。いよいよ、21世紀の幕開けの「神輿合わせ」の始まりです。

21世紀の最初の日であります、今年の元日、宇佐崎の祭典関係者一同は、練り番にふさわしい祭りを成功させるため、松原八幡神社に大きな提灯を練りながら、参拝しました。

今日の日を迎えるにあたって、宇佐崎の氏子らは、元気一杯に盛り上がっています。皆様のご声援とご協力をお願いします。

宇佐崎のバイタリティを一気に爆発させるために祭典役員、練子は、盛り上がっています。皆様のご声援とご協力をお願いします。

次に神輿行事について説明します。神輿行事に関する人々は、まず、自分の体を清める禊の行事から始めます。これを「潮かきの儀」とよび、神輿行事に参加する宇佐崎の関係者は、今朝の午前 5 時過ぎに屋台倉に勢揃いし、宇佐崎の本幟を先頭に一の丸、二の丸、三の丸の神輿幟と屋台をもって、白浜海岸で神事を行った後、練り子全員が、潮かき用のために特注したまわしをしめ、夜明けの冷たい海水に勢い良く入り、元気一杯の潮かきを行い、身も心も清め、神輿行事の安全と成功を祈ってきました。

次に、神輿について説明します。神輿は 3 基あり、松原八幡神社におまつりされている神様が、15 日の早朝に亀山宮司さんによって「御霊写しの儀」が行われ、それぞれの神輿にまつられています。一の丸は「応神天皇」二の丸は「神功皇后」三の丸は「ひめ大神」(天照大神の子で子孫繁栄の神様)です。灘のけんかまつりの神輿は、なぜ、激しくぶつけ合うのかというと、昔、神功皇后が外国と戦って、帰ってくる途中、松原八幡神社の先にある白浜の沖で軍船についたゴイナ(カキ)を落とすために、船をぶつけ合った故事にちなむと言い伝えられており、神輿合わせを激しくぶつけあうほど、神意に叶うとされています。なお、3 基の神輿合わせを行う宇佐崎の練り子は、年齢別に分けられており、一の丸は、黄色で 26 才から 35 才、二の丸は白で 36 才以上、三の丸は赤で 16 才から 25 才となっています。

・神輿幟が地蔵付近から、広畠に向かってきた時

まもなくしますと、宇佐崎の練子に担がれた神輿の御旅山への登場です。みなさん、大きな拍手・ご声援でお迎えください。

広畠付近の人、国道にいる人、神輿は入ってきます。大変危険ですので、今すぐ通路をあけて下さい。広畠にいる一般見物人の方は、ただちに広畠から出て下さい。

・神輿が広畠に入る手前から

今年、新調された「旧宇佐崎村」の大幟を先頭に、一の丸、二の丸、三の丸の神輿幟やたくさんの「警固(ケンゴウ)」に囲まれて、河野総代を騎馬にして「宇佐崎氏子」が威勢よく広畠に入ってきました。いよいよ灘のけんかまつりのハイライトシーンです。皆さん、宇佐崎練子に担がれた神輿が見えたら大きな声援をお願いします。

最初の一の丸が入場してきました。黄色のはちまきです。26 才から 35 才です。担当は、西の丁(六支部)です。

続いて二の丸が入場してきました。白色のはちまきです。36 才以上です。担当は、中の丁(七支部)です。

最後に三の丸が入場してきました。赤色のはちまきです。一番若い 16 才から 25 才です。担当は、東の丁(八支部)です。

いよいよ神輿合わせが始まります。これからのひととき、勇壮な神輿合わせを楽しみ、「灘のけんかまつり」のすばらしい醍醐味を味わってください。

・神輿が山に上がる時

神輿が、宇佐崎の練子にかつがれ、山上がりが始まりました。神輿が神官一行の待つ、御旅山の山上をめざして、登りはじめました。宇佐崎の皆さん、ご苦労様でした。御旅山の山上までがんばってください。ご声援ありがとうございました。